

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200496		
法人名	トータル・メディカル津沢（株）		
事業所名	グループホームひだまり御車山		
所在地	高岡市木津675-1		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

生活の中で利用者様が持っておられる力を発揮できる機会を提供し、やりがいや活気、そして笑顔につながるようなケアに日々取り組んでいます。
開所して4年経ちますが、今後も地域の一員として地域に貢献し、地域住民の方々に応援して頂けるようなグループホームを目指し、顔の見える関係作りに努めて参ります。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	令和2年1月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりの人生を敬い、持てる能力に応じて、ホールでの体操や廊下の歩行など、日常生活の動作が低下しないよう支援している。利用者の思いを取り入れ、馴染みの場所への外出や地域の催事には積極的に参加している。年2回家族会を開催するなど、意見を聞いたり、家族同士のコミュニケーションの場を提供している。今後職員のケアのレベルを高めるべく、研修会等を充実していくよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームひだまり御車山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員からアンケートを取り、自分たちの介護に対する考え方を話す機会を設けた。各ユニットの理念を作り実践に繋げている。	法人共通の理念と共に、事業所独自に目標を定め、利用者が生きがいを持って、楽しく、笑顔で過ごせる場所として、サービスを提供できるよう実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の学習発表会に利用者と職員が参加した。玄関に段差があり困っていると、数名の教員が車椅子を持ち上げてくれた。おかげで利用者が楽しい時間を過ごせた。	御輿祭りなど地域の催事には積極的に参加している。また、近くのいきいきサロンに出かけて行き、地域の人達との交流を楽しんだり、小学校の学習発表会に招待されるなど、地域との繋がりを大切にするよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに招待され利用者と職員で参加した。地域の方達と一緒に民謡を歌い踊り、認知症の方も皆さんと同じく楽しみを持って生活を送っている事を伝えられた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や取組みについて説明してサービスについて理解を得ている。また地域の状況や行事等について情報を聞く機会となっている。	運営推進会議は定期的開催されており、自治会長や民生委員の参加もあり、地域の情報をしっかりと得ている。事業所からはケアの様子や行事予定などの報告があり、委員からは地域の合同防災訓練や防災マップについて意見が交わされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高岡市よりメール等で情報が届く仕組みがある。防災について直接市の担当者より意見や指導を受けている。	市の高齢介護課へは運営推進会議の議事録を毎回送っている。また、防災マップや避難場所への誘導などについてアドバイスをもらうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。各グループホームの取り組みについて学ぶ機会となっている。主任が主体的に職員の指導を行っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会はグループ合同で開催しており、スピーチロックなど他の事業所での事例を持ち帰り、自社で研修会等を開いている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全体研修で高齢者虐待防止法について学んでいる。各自が虐待に繋がる行為についての理解を深めて実践に活かしている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の生活や権利を本人の自己決定ができるようサポートしている。職員も利用者に対し尊厳を尊重できるよう心掛けている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居決定し契約の段階で重要事項説明書、契約書の説明を行い理解して頂いている。納得し同意のもと契約をしている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ふれあいランチ、クリスマス会を開催し利用者家族がより多く参加できるよう働きかけている。行事のあと家族との意見交換会を実施して意見を伺っている。</p>	<p>前年度から家族会を立ち上げ、食事を兼ねて家族からの意見や要望を聞いている。ホールに職員の名前と顔写真を張り出していたが、家族からの意見で、名前が一目でわかるように名札を下げることにするなど、運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とのコミュニケーションを心がけている。ミーティング等の機会を通し意見を聞き管理者会議等で代表取締役社長に報告、相談している。	毎月のミーティングで、職員の意見や要望を聞いており、出された案件は職員間で話し合い、必要なものは業務に繋げて行くよう取り組んでいる。また、職員の働きやすい環境づくりにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談の機会を設け、個々の希望や特性に配慮しながら適材適所の配置となるように努めている。非正規雇用者についても向上心を持って働けるよう、同一労働同一賃金制度導入に向けて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質が向上できるよう定期的に法人内の研修（全体研修、グループホーム研修、口腔ケア研修など）を開催している。また、補助制度を設けながら法人外の研修への参加を積極的に推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外の研修参加や運営推進会議の開催、地域のいきいきサロンに参加し他法人職員や民生委員などとの情報交換や交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後もこれまでの生活歴を大切にしていける為に一日の過ごし方や趣味などの情報収集をすると共に、生活環境が変わることへの不安が軽減できるように傍に寄り添い話を傾聴しなじみの関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、不安や要望など家族と話す機会を設け、入居時の不安を軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から相談を受けた時に一番必要な支援は何かを見極めている。他のサービス利用も視野に入れて検討し、必要であれば情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事などを一緒に行いながら、利用者と職員が支え合う関係を築けるように努め、感謝や思いやりの心を忘れないように関わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない役割があることを理解し、気軽に面会に来て頂けるよう関係作りに努めている。面会時や毎月の便り、体調の変化があった時には都度連絡をとり、情報共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族と日頃から信頼関係の構築に努め、家族にも受診、外出、外泊支援を協力して頂いている。友人や親戚など、入居前に関わりがあった方から個別の面会があることもある。	家族の協力もあり、季節の花見や敬老会などには積極的に出かけており、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう支援している。また、友人や知人が訪れた時は、職員も一緒に話を聞くなど、継続して訪問して貰えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事など、利用者同士が交流する機会を設けている。個々の利用者の性格を把握し、座席の配慮、職員が間に入りながらトラブルのないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に郵便物が届いた時には家族へ連絡、必要に応じて病院や転居施設に訪問し、本人、家族へのフォロー体制を整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に意向を確認する機会を設けている。意思の確認が困難な利用者に対しては日頃の会話や様子から意向を汲み取るようサポートしている。	日々利用者一人ひとりに寄り添い、コミュニケーションを図りながら思いや意向の把握に努めている。はっきりと自分の思いや意見を伝える利用者も多く、思いを受け止めながら職員間で利用者の立場に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前施設の資料から情報収集し、アセスメントシートに記載し、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタルチェックを記載し、状態把握をしている。利用者の残存機能を意識して日々支援し、利用者に状態変化があった時には都度話し合いながら支援内容を見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に家族の思いを聞いたり、本人にはホームでの生活に慣れた頃に、生活歴や今後のケアについて意見を伺ってケアプランのニーズやモニタリングに繋げている。	利用者との関わりの中での気づきや家族からの意見を参考に、介護計画の作成に取り組んでいる。自分でできることを進め、役割がある生活の場として安心して普段通りに過ごせるよう、現状に応じて見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の入力、日報への記載を回覧している。毎日の申し送りやミーティングで情報を共有し見直しをかけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、経済状況も含めグループホームでの生活が継続できない場合は、本人や家族の意向を優先して対応できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催しているいきいきサロンへ参加し、地域との交流を図り、本人の力が発揮できる場面を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から本人の状態を家族に報告、相談している。家族が協力できるときは家族が同行し受診を行っている。場合によっては職員が、病院受診への協力も行っている。	いつでも適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との連携を図りながら往診や受診を進めている。受診の際には家族にも協力をお願いしたり、出来ないときには職員が付き添い、安心できる対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態の変化に気づくよう努めている。いつもと違ったことや変化があれば看護師や医師に連絡し相談している。家族にも連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護記録や健康記録の情報提供を行っている。入院中は時間があれば面会に行っている。病院看護師へは、グループホームでの生活状況やADLについて細かく情報を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族には終末期の話をしている。体調の変化や状況を見ながら家族にはその都度報告と相談を行っている、本人の状態を見ながら職員間ではミーティングで話し合いを行っている。地域には運営推進会議で報告や相談をしている。	利用者の状態変化や入退院時には、家族や医療との話し合いの場を持ち、情報を共有して今後の方針を確認している。見取り時には、本人、家族の思いを尊重し、最後まで穏やかに過ごしてもらえ環境を整え、事業所として出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事態に申し送りで確認している。急変や事故の対応については外部、社内研修に参加し非常時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回実施しているが、水害においては今年度中の実施に向けて計画中である。今年度地域との避難訓練については何度か担当者と話し合いを重ねたが調整できなかった。	火災を想定した避難訓練を実施し、非常階段を使い2階から1階への避難訓練も行っている。洪水災害による避難も含めたマニュアルの見直しも進めている。またライフラインが止まった時を想定して、備蓄品なども準備している。	市のハザードマップでは、洪水被害地区に事業所が入っており、今後の避難訓練には、1階利用者を2階へ移動する垂直避難も取り入れるなど、非常時に備えることが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格などを知り得た上で、どこまで話してよいか、プライバシーに配慮しながら対応している。	利用者一人ひとりの人格や生活習慣を尊重し、利用者に合った入浴時間や食事時間を決めている。携帯電話を自由に使っている利用者もおられ、プライバシーに注意しながら見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、食事、運動では、入浴時間、食事内容や量、運動時間について強制でなく本人の希望を聞きながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気持ちに寄り添っている。本人に確認したり、作業やレクの声掛けも本人の状態や希望にそってサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染を希望される場合は月一回の訪問理容を利用してもらう、カットや髭剃りも本人の希望にそって行っている。シャンプーリンス等を長年使っているものを継続している利用者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるよう献立を工夫している。利用者に食べたいものを尋ねて献立に取り入れる場合もある。利用者と一緒に調理、盛り付け、配膳、下膳を行っている。	利用者からは調理の味付けや食材の固さなどを指摘されるなど、意見を参考にしている。毎日、エプロンを付け調理や片付けを行う利用者もおられ、手伝うことが生活の一部となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や薬との食べ合わせを把握し、食事形態に配慮している。食事量、水分摂取量を記録して健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをして、全員がそれぞれにあった方法で行っている。毎月歯科衛生士の指導のもと口腔ケア研修を実施している。口腔ケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、必要な方は声かけをしてトイレ誘導を行っている。夜間ぐっすり休んで頂くため、夜間のみオムツ使用の方もいる。	トイレでの自立に向けた排泄に努めている。必要な利用者には、声かけに注意しながら利用者の出来る動作を見極めて介助を行い、プライドを損ねないよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操や階段昇降を行い、適度な運動を取り入れている。水分を多くとって頂き、乳製品や食物繊維の多いものをメニューに入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、できる限り時間や順番に配慮して行っている。浴槽へ入る時間は、体調を伺いながら好みの時間浸かって頂いている。	利用者によっては拘りの入浴時間があり、本人のペースを大切にしながら進めている。ゆず湯などで季節を感じてもらい、ゆっくりとした入浴支援を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、眠気が強くある時はベッドで休んで頂いている。気持ち良く休んで頂けるよう、温かい飲み物を提供したり、室内の温度調節をこまめに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認しやすい場所に、処方箋を置いてあるが、職員全員が理解できてはいない。服薬時は、必ず日付、名前を確認して飲み込むまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を把握して、掃除や洗濯物干し、食事の準備等を行い役割ややりがいを感じて頂けるように取り組んでいる。スポーツ観戦をする時は、みんなで楽しめるようリビングのテレビで見て頂けるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や利用者の体調を見て、散歩やドライブ、買い物に出かけている。利用者に食べたいものを伺い、定期的に外食へ行っている。家族との外出や外食をする方もいる。	散歩や買い物など、利用者の希望や天候を見ながらお連れしている。季節ごとの花見や近隣の祭り見物などにも出かけ、ドライブを兼ねて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、施設でお預かり又は立替っており、必要に応じて買い物時に使っている。自分で管理できる方には、所持して頂き一緒に買い物へ行ったり、要望の物を購入してレシートを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、できる限り電話をして話して頂いている。その際、家族への配慮も考えて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあった飾りを一緒に作り、みんなが見える場所に掲示している。施設内の温度やカーテン、窓の開閉を調節して過ごしやすいく雰囲気づくりをしている。	利用者が書いた「賀正」が玄関で迎えてくれる。開放感のある共有スペースでは、利用者同士の語りが見られたり、室温に気を使ったり、キッチンでは職員と一緒に食材を刻む利用者がいたり、それぞれの居場所で時間を過ごす様子が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席は決まっているが、それ以外の時はどこにでも座って頂き、いろんな方とのコミュニケーションが取れるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具を持ってきて頂き、安心して過ごせる居室にしている。	利用者本人が、動きやすく使いやすいうようにベッドや家具の配置を決めており、利用者や家族の意見も取り入れて、本人にとって過ごしやすいく居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にはできる限り障害物を置かないように配慮して、手すりにつながり一人でも歩けるようにしている。居室内は、本人の動きを把握して一人でも安全に動けるように家具やベッドの配置を変えて動線の確保を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり御車山
令和2年2月7日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策において火災訓練は年2回実施しているが、洪水時の避難訓練はまだ実施に至っていないのが現状である。	今年度中に洪水計画を作成し、洪水時の避難訓練を実施する。	高岡市の木津に避難準備、高齢者等の避難開始の発令が出たとの想定で、実際に利用者の駐車場への移動時間を図り、避難時必要物品の持ち出しを行って過不足があるかの確認も合わせて実施する。	6ヶ月
2	6	法人とグループホームで身体拘束廃止委員会を合同で開催している。今後も定期的な委員会の継続を行っていく為に各事業所ごとの委員会設置を推進したい。	今年度、身体拘束委員会の発足に向けて事業所合同で活動の目的や役割分担を話し合った。次年度は各事業所ごとの委員会に移行するが、実際に活動する中で出た課題などを整理し今後の委員会運営に活かしていく。	各事業所で4名の身体拘束委員を選出し、3ヶ月に1回話し合いの機会、勉強会の機会を設ける。年に1回事業所合同の職員への周知徹底を図って行く。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームひだまり御車山